

## 平成29年度全国学力・学習状況調査の結果について

### 1 調査の概要と目的

平成29年4月、平成29年度全国学力・学習状況調査が、これまでの教育活動や教育施策の成果と課題等を把握・検証し、今後の教育活動に生かすことを目的として全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に、悉皆調査として実施されました。

なお、国の調査実施要領で謳われているとおり、本調査で測定できるのは学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえて、調査結果を報告するものです。

### 2 実施状況

(1) 調査実施日 平成29年4月18日 (火)

(2) 実施項目 ア 児童生徒に対する調査

(ア) 教科に関する調査 国語、算数・数学  
主として「知識」に関する問題 (A)  
主として「活用」に関する問題 (B)

(イ) 質問紙調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

イ 学校に対する質問紙調査

学校を対象に、指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備にかかる状況等に関する調査

(3) 実施校数 小学校 35校 中学校 19校

(4) 実施人数 (単位：人)

	国語A	国語B	算数・数学A	算数・数学B	質問紙
小学校6年生	3,629	3,628	3,629	3,627	3,627
中学校3年生	3,312	3,306	3,307	3,309	3,310

### 3 平均正答率一覧表

(1) 藤沢市立小学校平均正答率 (単位：%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
全国 (公立)	74.8	57.5	78.6	45.9
神奈川県 (公立)	73.0	57.0	77.0	46.0
藤沢市 (公立)	71.0	56.0	76.0	44.0

全ての教科において神奈川県及び全国の公立小学校の平均正答率をやや下回っています。

(2) 藤沢市立中学校平均正答率 (単位：%)

	国語A	国語B	数学A	数学B
全国 (公立)	77.4	72.2	64.6	48.1
神奈川県 (公立)	77.0	72.0	64.0	48.0
藤沢市 (公立)	77.0	72.0	64.0	48.0

全ての教科において神奈川県及び全国の公立中学校の平均正答率と同程度となっています。

※国立教育政策研究所の報告書には、「全国の平均正答率 (公立) の±5%の範囲内にあれば、全国と大きな差は見られなかったと考える。」と表記されています。

(出典：平成29年度全国学力・学習状況調査報告書 平成29年8月 文部科学省 国立教育政策研究所)

## 4 教科に関する調査結果の特徴

### (1) 小学校 国語

ア 成果として認められる事項	イ 課題として考えられる事項
①漢字を正しく読むこと ②俳句の情景を捉えることと、ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いること ③目的や意図に応じて、文章全体の構成を考えること	①漢字を正しく書くこと ②目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話すこと ③物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめること

### (2) 小学校 算数

ア 成果として認められる事項	イ 課題として考えられる事項
①具体的な問題場面において、乗法に表し、計算をすること ②(整数) × (小数) の計算において、常数を整数に置き換えて考えること ③立方体の面と面の位置関係を理解すること	①加法と乗法の混合した計算をすることと、商を分数で表すこと ②資料から、二次元表の合計欄に入れる数を求めること ③仮の平均を用いた考えを利用し、測定値の平均を求めること

### (3) 中学校 国語

ア 成果として認められる事項	イ 課題として考えられる事項
①文脈に即して漢字を正しく読むこと ②語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと ③目的に応じて資料を効果的に活用して話すこと	①文脈に即して正しく漢字を書くこと ②表現の仕方について捉え、自分の考えを書くこと ③相手に分かりやすいように語句を選択して話すこと

### (4) 中学校 数学

ア 成果として認められる事項	イ 課題として考えられる事項
①平行移動した図形をかくこと ②証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解すること ③与えられた情報から必要な情報を選択し、事象に即して解釈すること	①関数の意味を理解すること ②2つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明すること ③資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること

## 5 児童生徒質問紙調査に関する調査結果の特徴

※児童生徒質問紙にある質問項目のうち、本市の児童生徒の学力と関連のある質問項目について取り上げています。

※児童は「小学生」、生徒は「中学生」を表しています。

※時間数を問う設問を除いて、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した比率を合計しています。

### 【特徴】

	質問項目	児童	生徒
学習に関する 関心・意欲等	国語の勉強が好き	58.0%	54.7%
	国語の勉強は大切だ	88.4%	84.0%
	読書が好き	70.5%	67.6%
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	82.7%	77.4%
	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している	60.8%	57.1%
	国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている	72.3%	60.8%
	算数・数学の勉強が好き	61.1%	52.9%
	算数・数学の勉強は大切だ	88.8%	72.1%
	算数・数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える	77.1%	70.2%
	算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	84.6%	61.8%
	「総合的な学習の時間」の授業では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる	53.0%	59.7%
生活習慣	朝食を毎日食べている	95.3%	93.3%
	就寝時刻が毎日ほぼ同じ	77.4%	72.5%
	起床時刻が毎日ほぼ同じ	89.3%	88.4%
	平日、1日当たり2時間以上テレビやビデオ・DVDを視聴する	57.0%	50.0%
	平日、1日当たり2時間以上、テレビゲームをする	34.9%	40.0%
	平日、1日当たり2時間以上、携帯電話やスマートフォンの通話やメール、インターネットを利用する	13.5%	39.4%

学習習慣・ 学習時間	家で、自分で計画を立てて勉強をしている	59.6%	47.5%	
	家で、学校の宿題をしている	95.4%	81.0%	
	家で、学校の授業の予習をしている	34.3%	31.3%	
	家で、学校の授業の復習をしている	36.9%	36.7%	
	平日に学校以外で 勉強する時間	2時間以上	30.3%	48.0%
		1～2時間	24.2%	25.1%
		30分～1時間	24.2%	12.0%
30分より少ないか全くしない		21.2%	14.7%	
学習状況	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意	51.7%	47.8%	
	400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しい	55.7%	56.3%	
	自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい	50.3%	60.5%	
	学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいた	67.5%	73.4%	
	授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていた	78.2%	64.0%	
その他	自分には、よいところがあると思いますか	76.8%	70.5%	
	家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をする	78.7%	71.9%	
	学校に行くのは楽しい	84.7%	78.3%	

## 6 今後の教育活動に向けて

### (1) 教育委員会における今後の取組

ア 今年度の全国学力・学習状況調査の結果について、校長会等で各学校に周知するとともに、教育委員会のホームページで公開し広く保護者・市民の皆様へも情報提供します。

イ 本市の児童生徒は、自分の考えを書くことや説明することについて、引き続きの課題が見られることから、改善に向けた工夫や取組の必要性を学校に対して働きかけていきます。

ウ 基礎的基本的な知識技能の定着に向けて、一人ひとりにきめ細かな支援等を行う「支援教育」の考え方にに基づき、各学校への計画訪問や要請訪問を通して、指導主事による「わかる授業づくり」の指導を行います。

また、教員のキャリアステージごとに経験者研修を実施するとともに、指導主事や学校人材育成支援員による教員の資質と指導力の向上を図ります。

エ 教育文化センターにおいて、「授業づくり」研修講座や「教科・領域」研修講座等を開催し、授業力向上にむけたスキルアップを図ります。

オ 好ましい生活習慣の確立は、学力と密接な関係があることから、基本的な生活習慣や学習習慣の定着を目指し、テレビやゲーム、携帯電話等は時間や約束を決めて使用することや、与えられた宿題をこなすだけでなく、計画的に家庭学習に取り組んでいけるよう、保護者に向けて、家庭での時間の使い方について改善していくよう働きかけを行います。

### (2) 学校における今後の取組

ア 全国学力・学習状況調査の結果を分析し、学校全体で共有します。その際、学年会、教科会において児童生徒の課題となる点を話し合い、チームで授業実践を行っていきます。また、課題については指導計画等に反映させます。

イ 児童生徒への調査によると「国語や算数・数学が好き」「学んだことは生活の役に立つ」という意識が低い傾向にあります。すべての児童生徒にとって分かりやすい、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを工夫し授業改善を図るとともに、学習したことが実生活の中でどのように活かされているのかが実感できるような学習展開を工夫し、興味関心を高めていきます。

ウ 「総合的な学習の時間」の授業などで、自分で課題を立て、調べたことを発表する等の学習活動に取り組む児童生徒の割合が低い傾向が見られます。各教科や総合的な学習の時間などを使い、自ら課題を設定し計画を立てて取り組む学習や問題解決学習、体験学習、言語活動などを意図的・計画的に取り入れ、児童が主体的・対話的に深く学ぶ機会を増やしていくことにより、知識・技能や思考力・判断力・表現力等の育成を図ります。

エ 家庭と連携しながら、自ら計画を立てて予習復習を行う学習習慣の確立や生活習慣の改善に向けた取組を行います。